

行政評価事務事業一覧

【まちづくりの目標1_子育て・教育】

施策 1-3_学校教育の充実

基本計画		事業番号	細事業名称
1-03-01	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	10007_01	教育振興補助金等
1-03-01	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	10007_02	定時制高校教育振興補助金
1-03-01	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	10184_01	学校音楽教育振興事業補助金
1-03-01	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	10401_01	生きた英語教育推進事業
1-03-01	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	10486_01	学力向上学習支援事業
1-03-01	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	10531_01	学校防災教育実践モデル地域研究事業
1-03-01	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	10536_01	別子中学校寄宿舎管理運営費
1-03-01	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	10553_01	ESD活動推進事業
1-03-01	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	10584_01	SDGs推進事業
1-03-02	児童・生徒の健全育成	10052_05	特色ある道徳教育推進事業
1-03-02	児童・生徒の健全育成	10329_01	あすなろ教室推進事業
1-03-02	児童・生徒の健全育成	10329_02	不登校対策総合推進事業
1-03-02	児童・生徒の健全育成	10331_01	中学校ハートなんでも相談員設置事業
1-03-02	児童・生徒の健全育成	10426_01	小学校ハートなんでも相談員設置事業
1-03-02	児童・生徒の健全育成	10430_01	スクールソーシャルワーカー活用事業
1-03-02	児童・生徒の健全育成	10514_01	学校給食会補助金
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10066_01	私立幼稚園私学助成事業補助金
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10175_01	小学校教育充実事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10179_01	中学校教育充実事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10179_06	英検受験奨励事業補助金
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10197_01	小学校施設環境整備事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10198_01	中学校施設環境整備事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10363_01	給食運営改善事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10425_01	幼稚園施設環境整備事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10491_01	学校図書館支援事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10501_01	学校給食多子世帯支援事業補助金
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10554_01	スクール・サポート・スタッフ配置事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10556_01	部活動指導員配置事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10568_01	小中学校ICT環境整備推進事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10570_02	西部学校給食センター建設事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10570_03	西部学校給食センター建設推進事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10626_01	旧王子幼稚園解体事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10631_01	小学校トイレ改修事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10632_01	西部学校給食センター開設準備事業

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10007_01			
事業名(行目名称)		教育振興補助事業費	細事業名	教育振興補助金等				
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実				
	基本計画	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	担当課	学校教育課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内小中学校		数値	28校			
	手段(どうやって)	均等割と生徒児童数割による負担金を支出する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	学校施設の整備促進及びへき地教育の振興を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		82	84	84	83	○負担金補助及び交付金 84千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0				
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	82	84	84	83			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
対象校数			目標値	28	28	28	28	28
			実績	28	28	28	28	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
特になし								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
次年度についても今年度と同様の予算規模及び方法にて事業を実施する。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
引き続き、学校施設の整備促進及びへき地教育の振興を図るため、事業を継続する。								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10007_02			
事業名(行目名称)		教育振興補助事業費	細事業名	定時制高校教育振興補助金				
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実				
	基本計画	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	担当課	学校教育課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜西高等学校定時制生徒		数値	52			
	手段(どうやって)	定時制高等学校生徒の健全育成活動、生徒会・文化・体育活動及び定時制高等学校において開催される開放講座等への助成を行う。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	勤労青年、不登校・全日制課程中途退学者など多様な生徒が学ぶ高等学校定時制教育の振興及び生涯学習の場を確保する。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		237	237	237	237	○負担金補助及び交付金 237千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	237	237	237	237			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
補助対象校			目標値	1	1	1	1	1
			実績	1	1	1	1	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
特になし。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
次年度についても今年度と同様の予算規模及び方法について事業を実施する。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
高等学校定時制教育の振興及び生涯学習の場の確保のため、継続して事業を実施する。								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10184_01		
事業名(行目名称)		学校音楽教育振興費	細事業名	学校音楽教育振興事業補助金			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市小・中学校音楽教育振興会	数値	1			
	手段(どうやって)	学校音楽教育における教職員の資質向上のための研修事業等を行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	学校音楽教育における教職員の資質向上と児童生徒の合唱表現・演奏技術力の向上を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		201	204	204	201	○負担金補助及び交付金 200千円 ○積立金 4千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	201	204	204	201		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
音楽指導者講習会開催回数		目標値	1	1	1	1	1
		実績	0	3	3	4	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
特になし。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
次年度についても今年度と同様の予算規模及び方法にて事業を実施する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
学校音楽における教職員の資質・指導力の向上及び小・中学校の児童生徒の音楽教育の充実を図るため、継続して事業を実施する。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10401_01		
事業名(行目名称)		生きた英語教育推進費	細事業名	生きた英語教育推進事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内小中学校の児童生徒及び教員	数値	9,779人			
	手段(どうやって)	中学校では、ALTと外国語担当教員とのTT(チームティーチング)で、コミュニケーション活動のアドバイス、英文作成等の個別指導を実施している。小学校では、担任と英語指導員及びALTとのTTにより「英語を楽しむ。」「英語を好きになる。」ことに重点を置いて、総合的な学習の時間を利用して英語教育の推進を図っている。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	臨場感のある英会話に触れることにより英語教育への関心や意欲を高めるとともに、国際理解教育の推進や英語力の向上を図り、国際的視野に立つ人間性豊かな児童生徒をより多く育成する。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		56,952	67,738	67,738	64,005	<ul style="list-style-type: none"> ○報酬 47,174千円 ○職員手当等 1,072千円 ○共済費 7,827千円 ○旅費 1,416千円 ○需用費 135千円 ○役務費 275千円 ○使用料及び賃借料 6,526千円 ○備品購入費 326千円 ○負担金補助及び交付金 2,987千円 	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	3,037	3,667	3,667	3,566		
	一般財源	53,915	64,071	64,071	60,439		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
中学生のTTに対し意欲が向上した割合(%)		目標値	100	100	100	100	100
		実績	100	100	—	100	—
V 事中評価							
評価視点	妥当性	やや高い	有効性	高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等	事業の方向	現状のまま維持する					
<p>ALTによっては、ALTと小学校教員とのTT(チームティーチング)の打合せ等で意思疎通が難しいことがあり、ALTの能力を最大限に有効活用するためには、英語指導員との更なる連携が望まれる。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)	予算の方向	現状維持					
<p>令和3年度途中より新規招致が再開され、現在は令和元年度以前同様、全中学校にALTが常駐している。令和3年度から中学校において、新学習指導要領が全面实施されたことで「授業を英語で行うことを基本とする」という方針のもと、中学校の授業を実際のコミュニケーションの場とし、生徒が英語に触れる機会を充実させることでより高度な学びに繋げるためにも、ALTの活用が必要である。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)	B:事業の進め方の改善検討					
<p>主に中学校を担当するALTだけでなく、小学校を担当する英語指導員とも連携を図りながら、新居浜市の児童・生徒の英語力向上と国際理解教育を一層推進する観点から今後も継続して事業を実施する必要があるが、R5夏からのALTの配置人数の減員に伴い、事業の進め方の改善検討が必要である。</p>							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10486_01			
事業名(行目名称)		学力向上学習支援事業費	細事業名	学力向上学習支援事業				
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実				
	基本計画	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	担当課	学校教育課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内小中学校の児童生徒		数値	9,217人			
	手段(どうやって)	学習習慣の定着化と思考力、表現力やコミュニケーション力を高める事業を推進する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	児童生徒に基礎的な知識や技能を身に着けさせ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を育成し、確かな学力の習得を目指す。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		217	2,467	2,467	2,050	○報償費 455千円 ○旅費 192千円 ○需用費 180千円 ○負担金補助及び交付金 1,640千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0				
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	217	2,467	2,467	2,050			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
English Summer School参加中学生人数			目標値	60	0	60	60	60
			実績	0	0	62	67	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>あかがね算数・数学コンテスト、イングリッシュサマースクールともに感染症対策を行い計画通り実施できた。また、教育力向上推進委員会を開催し、学力向上等の取組みについて検討協議を行った。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>学力向上に資する取組を継続して行うため、来年度も同規模の事業を実施する。</p>								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>学力向上のため、学習習慣の定着と思考力・判断力・表現力を育む事業を推進していく必要があることから、事業を継続実施していく。</p>								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10531_01		
事業名(行目名称)		小中学校教育研究県指定校費	細事業名	学校防災教育実践モデル地域研究事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	小中学校教職員・生徒	数値	9,822人			
	手段(どうやって)	研究指定校の指定を受け、研究指定事業の実践的研究を実施する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	大規模災害に直面した際に、自他の命を守るために主体的に正しい判断で動くことのできる児童生徒の育成を目指して、実際の場面で生きて働く防災プログラムを構築するため、研究課題の設定、実践、評価を行い、実践研究の成果の普及を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費			500	500	500	○報償費 66千円 ○旅費 258千円 ○需用費 176千円	
財源	県・国支出金		500	500	500		
	地方債		0	0	0		
	その他		0	0	0		
	一般財源		0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
発表会開催回数		目標値			1	1	—
		実績				1	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	休止・廃止する				
特になし。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止				
令和4年度だけの指定校事業である。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		D:事業の統合・休廃止を検討				
大規模災害に直面した際に、自他の命を守るために主体的に正しい判断で動くことのできる児童生徒の育成を目指して、実際の場面で生きて働く防災プログラムを構築するため、研究課題の設定、実践、評価を行い、実践研究の成果の普及を図られたが、令和4年度だけの指定校事業であるため廃止する。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10536_01		
事業名(行目名称)		別子中学校学び創生事業費	細事業名	別子中学校寄宿舎管理運営費			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	別子中学校寄宿舎入舎生		数値	15人		
	手段(どうやって)	新居浜市街地から生徒を募集し、別子中学校敷地内に整備した寄宿舎で集団生活を送りながら、少人数学習や英語・数学・理科の充実を図る特別な教育課程、ALTの常時在校等による総合的な英語力の育成、地域との協働を含めた多様なESDの推進等の教育活動を実施する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	人口減少と過疎化が進行する別子山地域において、コミュニティの核となる魅力ある学校づくりに取り組み、学校を拠点とした地域の活性化、まちの魅力創出を図るとともに、中学3年間を通じて学力向上及び地域への愛着と誇りを持ち、知・徳・体を備えた人間形成を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		34,618	35,464	35,464	34,902	<ul style="list-style-type: none"> ○報酬 2,453千円 ○職員手当等 329千円 ○共済費 477千円 ○旅費 23千円 ○需用費 2,978千円 ○役務費 251千円 ○委託料 28,776千円 ○使用料及び賃借料 159千円 ○負担金補助及び交付金 18千円 	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	11,057	11,680	11,680	11,868		
	一般財源	23,561	23,784	23,784	23,034		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
英検取得者数 1年4級、2年3級、3年準2級		目標値	9	16	17	17	18
		実績	11	16	11	11	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
寄宿舎において新型コロナウイルス感染症の集団感染を防ぐため、引き続き対策の徹底を図っていく必要がある。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
令和3年度から新入学1年生の定員を5名から6名に増員したことにより、令和5年度からは入寮生徒数が18名となる。食事提供数増に伴い、寄宿舎運営維持管理委託料が増加し、事業費は増額となるが、寮費として実費徴収金の歳入額も増加するため、差し引き一般財源額は減額となる。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
寄宿舎の運営により生徒の学校までの片道1時間余りの通学の負担軽減が図られるとともに学習及び生活環境等、生徒の受け入れ環境が整備されたもとで特色ある教育活動が行えた。令和4年度は、別子中学校の生徒が、別子山地域からなくなっていた「夏まつり」を自分たちの手で復活させ、日頃から支えてくれている別子山地域の方々と、さらにつながれる場を作ることができ、これらの教育活動により、学力向上及び学校を拠点とした地域の活性化が図られた。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10553_01		
事業名(行目名称)		ESD活動推進事業費	細事業名	ESD活動推進事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内小中学校の児童生徒及び教員	数値	9,822人			
	手段(どうやって)	ネットワークの維持、活用のための協議会開催及び教職員を対象とした研修会の開催。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	現代社会の様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取組み、解決し、実践化していこうとする態度を育成のねらいとし、将来にわたって持続可能な社会を構築する担い手を育むESDを行う。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		117	2,486	2,486	1,233		
財源	県・国支出金	0	0	0	0	○報償費 182千円 ○旅費 142千円 ○委託料 2,162千円	
	地方債		0	0			
	その他	0	162	162	162		
	一般財源	117	2,324	2,324	1,071		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
ESD推進協議会開催回数		目標値	1	1	1	1	1
		実績	1	1	1	1	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
特になし。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
持続可能な社会を構築する担い手を育成するためには、関係者とのネットワーク維持や教職員対象の研修等の継続した取り組みが必要であることから、引き続き同規模の事業を実施する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		B: 事業の進め方の改善検討				
持続可能な社会を構築する担い手を育成するためには、関係者とのネットワーク維持や教職員対象の研修等の継続した取り組みが必要であることから、引き続き事業実施はするが、予算の内容変更に伴い、事業の進め方については、検討が必要。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10584_01		
事業名(行目名称)		SDGs推進事業費	細事業名	SDGs推進事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内の小中学校児童・生徒及び教職員	数値	9996人			
	手段(どうやって)	小中学生及び教職員を対象とした講演会を開催する。また、啓発用冊子作成を通してSDGsに対する理解促進を図る。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	小中学校におけるSDGs達成に向けた取り組みを効果的に進めるため、17の目標に合致した事業を実施することで、SDGsに対する理解促進を図る。また、教職員がSDGsへの理解を深めることで、子ども達に質の高い教育を行う。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		2,611	4,326	4,326	4,177	○報償費 65千円 ○旅費 7千円 ○需用費 1,118千円 ○委託料 3,086千円 ○使用料及び賃借料 50千円	
財源	県・国支出金	792	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	1,819	4,326	4,326	4,177		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
講演会参加者数		目標値	800	800	0	800	800
		実績	0	0	0	853	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>例年どおり啓発冊子を作成し、児童生徒や教職員に配布し、ふるさと学習の場などにおいて活用している。 また、過去2年間はコロナ禍で開催できなかった講演会について、今年度は公募型プロポーザルで開催業務委託業者を選定し、令和5年3月に市民文化センターで実施予定である。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>令和4年5月2日に新居浜市が国から「SDGs未来都市」に選定されたこともあり、引き続き持続可能なまちづくりの実現のため、児童生徒や教職員のSDGsに対する理解促進を図る。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>コロナ禍で延期していた講演会を実施し、参加者が853人の動員数となった。また、受講者から「学び・気づきがあった」「楽しかった」「すぐに実行したい」等の感想・評価を得た。</p>							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10052_05		
事業名(行目名称)		中学校教育研究県指定校費	細事業名	特色ある道德教育推進事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	児童・生徒の健全育成	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	中学校教職員・生徒	数値	3,424人			
	手段(どうやって)	研究指定校の指定を受け、研究指定事業の実践的研究を実施する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	学習指導要領の趣旨及び学校や地域の実態を踏まえ、各学校が直面する課題の解決に向けて創意工夫を生かした道德教育を推進するため、研究課題の設定、実践、評価を行い、中間発表会の開催を通して、実践研究の成果の普及を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○報償費 80千円 ○旅費 352千円 ○需用費 168千円	
経費		600	600	600	600		
財源	県・国支出金	600	600	600	600		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
発表会開催回数		目標値	0	1	1	1	—
		実績	0	1	0	1	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	休止・廃止する				
特になし。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止				
令和3年度及び令和4年度の2か年の指定校事業である。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		D:事業の統合・休廃止を検討				
学習指導要領の趣旨及び学校や地域の実態を踏まえ、各学校が直面する課題の解決に向けて創意工夫を生かした道德教育を推進するため、研究課題の設定、実践、評価を行い、中間発表会の開催を通して、実践研究の成果の普及を図れたが、令和3年度及び令和4年度の2か年の指定校事業であるため、廃止する。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10329_01		
事業名(行目名称)		いじめ・不登校問題等対策費	細事業名	あすなる教室推進事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	児童・生徒の健全育成	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	不登校児童生徒(不登校傾向にある者を含む)		数値	130人		
	手段(どうやって)	各学校における不登校対策として検討委員会を開催し、不登校問題等について多角的に実態を分析し、その結果を各学校へ提言・資料提供している。学習には関心はあるが、家庭から出ることのできない児童生徒については、在宅学習として、電子メール等を利用して教師が添削・解説し、再度家庭へ配信するなど学習状況の把握に努めるとともに、教室に入れない児童生徒については、相談室等で常時アクセスして学習できるWEB配信型学習教材を活用した学習環境づくりを行う。また、各種の体験活動や宿泊体験活動を実施する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	いじめや不登校などを原因として学校や社会に適応できない児童生徒の学校への復帰と社会的自立を目指す。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		11,372	12,143	12,143	11,876	<ul style="list-style-type: none"> ○報酬 8,042千円 ○職員手当等 1,341千円 ○共済費 1,629千円 ○報償費 200千円 ○旅費 269千円 ○需用費 132千円 ○役務費 162千円 ○使用料及び賃借料 363千円 ○負担金補助及び交付金 5千円 	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	11,372	12,143	12,143	11,876		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
あすなる教室通級児童生徒数(人)		目標値	10	10	10	10	10
		実績	59	49	30	46	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
通級・児童生徒数は年々増加傾向にある。十分な指導のために、指導員や講師の負担が大きくなっている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
引き続き、あすなる教室を拠点として、学校や家庭など各関係機関と連携した復学・社会的自立に向けた細やかな個別指導の実施を図る。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
通級児童・生徒数は令和3年度と比べてやや減少しているが、目標値にはまだ及ばない。いじめ・不登校等問題の解消に向け、保護者・学校・その他関係機関との連携に係る拠点としてあすなる教室を運営し、不登校の未然防止や早期発見・解決につながる各事業の継続的な実施が必要とされており、今後も継続して事業を実施する。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10329_02		
事業名(行目名称)		いじめ・不登校問題等対策費	細事業名	不登校対策総合推進事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	児童・生徒の健全育成	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	不登校児童生徒(不登校傾向にある者を含む)		数値	130人		
	手段(どうやって)	「あすなる教室」の事業とタイアップして行った。通級の児童生徒及び保護者に対しての相談活動やカウンセリング、また、家庭訪問等を行うことにより、児童生徒の悩みや不安を解消し、学校復帰を目指した。また、不登校対策事例の先進地研修を実施し、市、学校及び家庭での取組・対応についての効果があった。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	30日以上欠席の不登校児童生徒だけでなく、不登校傾向のある児童生徒の学校への復帰。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		4,620	7,723	7,723	7,020	<ul style="list-style-type: none"> ○報酬 305千円 ○報償費 579千円 ○旅費 79千円 ○需用費 50千円 ○委託料 6,710千円 	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	4,620	7,723	7,723	7,020		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
不登校による30日以上欠席児童生徒数(人)			目標値	99	99	99	99
			実績	171	178	128	230
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>令和4年度については、不登校による30日以上欠席児童生徒数が大幅に増加しており、また、あすなる教室への通級生も増加傾向にある。対象児童生徒への支援や関係機関との連携が増々必要になってきている。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>引き続き、訪問相談やカウンセリング、スクールソーシャルワーカー等とのかかわりを通じ、不登校生徒の学校への復帰や社会的自立を目指す。</p>							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>あすなる教室との連携の中で、不登校児童生徒の社会的自立に向けた学習支援、体験活動の実施、訪問相談等による相談活動の継続的な取り組みが必要であり、スクール・ソーシャル・ワーカーとの連携も含めて今後も事業を継続していく必要がある。</p>							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10331_01		
事業名(行目名称)		中学校ハートなんでも相談員設置事業費	細事業名	中学校ハートなんでも相談員設置事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	児童・生徒の健全育成	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	配置校の生徒及び教員		数値	1,473人		
	手段(どうやって)	スクールカウンセラーを設置していないすべての中学校に「ハートなんでも相談員」を配置し、平成16年度から相談時間数を増加している。生徒、保護者、教員等から相談を受け、適切な対応を図り、また、学校と連携し、家庭訪問等も実施するなど、生徒の問題行動、不登校等未然防止と早期発見・解決を図った。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	生徒たちの悩みや不安、ストレス等を和らげ、豊かな人間性を育む。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		1,680	1,781	1,781	1,732	○報酬 1,680千円 ○旅費 101千円	
財源	県・国支出金	372	372	372	371		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	1,308	1,409	1,409	1,361		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
相談人数(延べ人数)		目標値	600	600	600	600	600
		実績	663	980	304	686	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
限られた相談日数の中で、相談件数は年々増加しており、相談員への負担が大きくなっている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
学校からの要望も高く、必要性も高いことから、県への増員要望も含め、引き続き現状維持の方向で実施する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
教職経験者や地域の適任者の中から相談員を選任し、生徒・保護者、教員等からの相談に適切な対応を図ることで、生徒の問題行動、不登校等未然防止と早期発見、解決を図ることができた。今後も県の補助事業を積極的に活用しながら事業を継続していく。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10426_01		
事業名(行目名称)		小学校ハートなんでも相談員設置事業費	細事業名	小学校ハートなんでも相談員設置事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	児童・生徒の健全育成	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	配置校の児童及び教員		数値	6,425人		
	手段(どうやって)	比較的大規模校(児童数:400人以上)において、概ね70日、280時間(1日当たり4時間程度)を基本として、「ハートなんでも相談員」を設置し、児童、保護者、教員等からの相談を受け、また、地域や中学校との連携を図り、児童の問題行動、不登校等の未然防止と早期発見・解決を図る。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	児童の悩みや不安、ストレス等を和らげ、豊かな人間性を育み、小中学校の接続・連携の改善を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		3,360	4,018	4,018	3,762	○報酬 3,640千円 ○旅費 378千円	
財源	県・国支出金	930	1,023	1,023	1,023		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	2,430	2,995	2,995	2,739		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
相談人数(延べ人数)		目標値	3200	3200	3200	3200	3200
		実績	3961	3203	1350	2842	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
限られた相談日数の中で、相談件数は年々増加しており、相談員への負担が大きくなっている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
学校からの要望も高く、必要性も高いことから、引き続き現状維持の方向で実施する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
教職経験者や地域の適任者の中から相談員を選任し、生徒・保護者、教員等からの相談に適切な対応を図ることで、生徒の問題行動、不登校等未然防止と早期発見、解決を図ることができた。今後も県の補助事業を積極的に活用しながら事業を継続していく。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10430_01		
事業名(行目名称)		スクールソーシャルワーカー活用事業費	細事業名	スクールソーシャルワーカー活用事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	児童・生徒の健全育成	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内小・中学校の児童生徒及び教員		数値	9,779人		
	手段(どうやって)	児童生徒の問題行動等へ対応するため、社会福祉等の専門的な知識・技術を用いて、児童生徒が置かれている保護者等の相談に応じたり、福祉関係機関その他の機関とのネットワークを活用して援助を行う専門家であるスクールソーシャルワーカーを各小中学校へ派遣する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	児童生徒の問題行動等へ対応するため、教育分野に関する知識に加えて、社会福祉等の専門的な知識・技術を用いて、児童生徒が置かれている様々な環境へ働きかけたり、関係機関等とのネットワークを活用して、問題を抱える児童生徒に支援を行うスクールソーシャルワーカーの活用方法について調査研究を行う。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		2,481	2,257	2,257	2,423	○報酬 2,160千円 ○旅費 76千円 ○需用費 21千円	
財源	県・国支出金	1,092	1,092	1,092	1,092		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	1,389	1,165	1,165	1,331		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
支援対象となった児童生徒数(人)		目標値	45	45	45	45	45
		実績	95	79	95	117	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>令和2年度から3名体制で学校からの相談要請に対応しており、スクールソーシャルワーカーの認知が広まったこともあり、相談や依頼件数が増加している。また、個人情報を守り正しく管理し、効率よい業務のため、専用のメールボックスの整備を行った。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
<p>自家用車で訪問へ行っている現状であり、日額旅費を支給する必要があるため、日額旅費を支給する必要がある。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>社会福祉等の専門的な知識・技術を持ったスクールソーシャルワーカーを各小中学校へ派遣したり相談業務を実施することにより、増加傾向にある支援対象児童生徒に対する支援を行った。 今後も県の補助事業を活用し、あすなろ教室を拠点として、いじめ・不登校・問題行動等に対応するため、引き続き相談活動・支援等を充実していくとともに、関係機関とのネットワーク構築をより深めていく必要がある。</p>							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10514_01		
事業名(行目名称)		学校給食推進費	細事業名	学校給食会補助金			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	児童・生徒の健全育成	担当課	学校給食課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	米飯購入7校の児童生徒数	数値	4037			
	手段(どうやって)	米飯購入校と精米を購入し自校で炊飯する学校との価格差について米飯購入校に対して差額を補助する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	市内同一水準の給食を提供する。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		13,981	14,630	14,630	13,546	○負担金補助及び交付金 14,630千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	13,981	14,630	14,630	13,546		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
差額補助実施校数		目標値	7	7	7	7	7
		実績	7	7	7	7	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	重点化する				
市内同一水準の給食を提供できている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
今後も市内同一水準の給食を提供する必要があるが、来年度から委託炊飯経費の上昇が見込まれるため事業費の増額が必要である。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)	A: 計画通りに事業を進めることが適当					
令和6年9月からの新センター稼働までの間、委託炊飯経費の差額補助については実施することで、市内銅市水準の給食が提供できているため、今後も計画通り事業を進める。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10066_01		
事業名(行目名称)		私立幼稚園私学助成費	細事業名	私立幼稚園私学助成事業補助金			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	私立幼稚園(2園)及び在籍する園児・保護者	数値	2園			
	手段(どうやって)	私立幼稚園教育環境(人材など)の向上や公私立格差の軽減のため、私立幼稚園へ助成を行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	本市の就学前教育の充実を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○負担金補助及び交付金 1,172千円	
経費		1,317	1,581	1,581	1,173		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	1,317	1,581	1,581	1,173		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
私立幼稚園就園児数割合 ※令和3年度以降は2園分の割合に変更		目標値	37	10	10	10	10
		実績	21.3	13.1	11.9	11.9	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
特になし。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
次年度についてもやや縮小しつつ今年度と同様の予算規模及び方法にて事業を実施する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
就学前教育の振興及び幼稚園経営の安定を図る必要があり、本市においては私立2園が運営された。令和5年度は2園から1園へ縮小するが、私立幼稚園の教育環境等の安定化を図るため、縮小後も継続して事業を行う。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10175_01			
事業名(行目名称)		小学校教育充実費	細事業名	小学校教育充実事業				
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実				
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校教育課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	小学生	数値	5,890人				
	手段(どうやって)	小学校における教育活動の充実に必要な経費を予算化する。また、学校図書館図書等の整備充実を図る。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	小学校における義務教育に必要な教材消耗品の購入、社会科見学のバスの借上げ等を行い、教育活動の充実を図る。また、児童が、読書活動を通じて豊かな人間性や感性・読解力などを育むことができるよう、学校図書館図書等の充実を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		22,569	25,903	25,903	23,766	○報償費 560千円 ○需用費 17,696千円 ○使用料及び賃借料 7,590千円 ○備品購入費 57千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0				
	その他	0	0	0	0			
一般財源		22,569	25,903	25,903	23,766			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
個人負担を軽減することができた児童数			目標値	6153	6058	5890	5890	5691
			実績	6153	6058	5890	5890	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
特になし。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
教育活動の充実のため、現状どおり継続して実施する。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
義務教育にかかる経費の公費負担により保護者の負担軽減を図ることができた。								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10179_01		
事業名(行目名称)		中学校教育充実費	細事業名	中学校教育充実事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	中学生	数値	3,142人			
	手段(どうやって)	中学校における教育活動の充実に必要な経費を予算化する。また、学校図書館図書等の整備充実を図る。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	中学校における義務教育に必要な教材消耗品の購入、ふるさと学習のバス借上げ等を行い、教育活動の充実を図る。また、生徒が、読書活動を通じて豊かな人間性や感性・読解力などを育むことができるよう学校図書館図書等の充実を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)		令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		19,112	21,679	21,679	18,732		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	19,112	21,679	21,679	18,732		
○報償費 393千円 ○需用費 15,961千円 ○委託料 240千円 ○使用料及び賃借料 4,920千円 ○備品購入費 165千円							
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
個人負担を軽減することができた生徒数		目標値	3064	3098	3142	3142	3110
		実績	3064	3098	3142	3142	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
特になし。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
保護者の負担を軽減するため、現状どおり継続して実施する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
義務教育にかかる経費の公費負担により保護者の負担軽減を図ることができた。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10179_06		
事業名(行目名称)		中学校教育充実費	細事業名	英検受験奨励事業補助金			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内中学校3年生保護者		数値	約1,000人		
	手段(どうやって)	市内中学3年生の保護者を対象に、英検3級検定料の一部を受験1階に限り補助金として交付する。なお、中学3年生になるまでに既に3級を取得している生徒の保護者に対しては、2級以上の受験について、受験1回に限り3級受験者と同額の補助金を交付する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	市内中学3年生が英検を受験する際の費用の一部を支給することにより、受験率の向上から学力向上につなげる。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○負担金補助及び交付金 1,320千円	
経費			1,320	1,320	827		
財源	県・国支出金		0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他		0	0	0		
	一般財源		1,320	1,320	827		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
中学3年生総数における受験率		目標値	100	100	100	100	100
		実績	34	31	32	32	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
受験者は、英語力向上のための講座の受講もできることから、英語力向上のためになる事業である。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止				
大学の受験制度の改革に対応するために、3年間実施したが、受益者が受験者に限られることや、英語力向上につながる明確な効果が見られないため、令和5年度からは事業を廃止する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	D:事業の統合・休廃止を検討				
大学の受験制度の改革に対応するために、3年間実施したが、受益者が受験者に限られることや、英語力向上につながる明確な効果が見られないため、令和5年度からは事業を廃止する。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10197_01		
事業名(行目名称)		小学校施設環境整備事業	細事業名	小学校施設環境整備事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内小学校に通学する児童		数値	5890人		
	手段(どうやって)	施設面では、危険箇所及び老朽化した箇所の工事・修繕を、また、設備面では、保守管理及び故障箇所の修繕等を行っている。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	小学校の施設・設備の適正な保守及び維持管理を図り、児童が安全で快適な教育を受けることができる環境をつくる。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		72,317	120,090	120,090	104,798	○職員手当等 261千円 ○需用費 21,585千円 ○委託料 3,990千円 ○工事請負費 84,016千円 ○公有財産購入費 6,060千円 ○備品購入費 4,178千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債	33,800	71,900	71,900	59,500		
	その他	3,448	0	0	0		
	一般財源	35,069	48,190	48,190	45,298		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
小学生一人当たりの投入費用(円)		目標値	10000	10000	5000	10000	10000
		実績	25160	11937	16100	17792	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
本年度予定している6工事のうち3工事は完了、3工事は施工中であり、当初のスケジュールとおりでである。すべての工事が完了し、施設修繕料等を執行することで、小学校の安心・安全な教育環境の維持管理が図られる。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
学校施設の老朽化が進み、老朽化対策に追われる状況であり、求められるニーズに合わせた教育環境の改善が必要である。必要な工事等を精査しながら、安心安全な教育環境を整備する必要がある。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
子どもたちの安全を優先し、修繕等により安全で快適な教育環境の維持・確保に努めた。施設の多くが老朽化していく中で、現在の教育環境のニーズに対応し、維持管理に努め、安心で安全な教育環境の整備を進めることが必要であるため、今後も継続して事業を行う。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10198_01		
事業名(行目名称)		中学校施設環境整備事業	細事業名	中学校施設環境整備事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市立中学校に通学する生徒		数値	3142人		
	手段(どうやって)	施設面では、危険箇所及び老朽化した箇所の工事・修繕を、また、設備面では、保守管理及び故障箇所の修繕等を行っている。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	中学校の施設・設備の適正な保守及び維持管理を行い、生徒が安全で快適な教育を受けることができる環境をつくる。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		58,243	65,260	65,260	58,727	○職員手当等 214千円 ○需用費 10,969千円 ○委託料 4,676千円 ○工事請負費 45,015千円 ○備品購入費 4,386千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債	34,900	40,400	40,400	36,400		
	その他	3,556	0	0	0		
	一般財源	19,787	24,860	24,860	22,327		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
中学生1人あたりの投入費用(円)		目標値	13095	16000	8000	16000	16000
		実績	21205	18800	16700	18690	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
本年度予定している3工事のうち、2工事が完了し、1工事が施工中であり、当初のスケジュールとおりである。すべての工事が完了し、施設修繕料等を執行することで、中学校の安心安全な教育環境の維持管理が図られる。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
学校施設の老朽化が進み、老朽化対策に追われる状況であり、求められるニーズに合わせた教育環境の改善が必要である。必要な工事等を精査しながら、安心安全な教育環境を整備する必要がある。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
令和4年当初予定していた工事がすべて完了また施設修繕料等の執行ができ教育環境の改善を図れた。今後においても学校施設の老朽化が進んでいることから必要な工事等を精査し安心安全な教育環境を整備する。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2022	10363_01
事業名(行目名称)		給食運営改善事業		給食運営改善事業		
総合計画	まちづくり	子育て・教育		学校教育の充実		
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備		学校給食課		
II 事務事業の実施概要						
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内小中学校児童生徒(ひびき分校除く)			数値	9188
	手段(どうやって)	厨房関係施設設備の修繕及び更新。				
	目的(どんな状態にしたいのか)	学校給食調理場の施設・設備の維持管理、更新及び改善措置を行い、円滑で安全な学校給食の運営を図る。				
III 投入費用						
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース
			当初予算額	年度末予算額	決算額	
経費		73,766	94,909	94,909	89,779	<ul style="list-style-type: none"> ○職員手当等 121千円 ○需用費 11,724千円 ○委託料 990千円 ○使用料及び賃借料 371千円 ○備品購入費 81,703千円
財源	県・国支出金	0	0	0	0	
	地方債	44,100	60,400	60,400	60,400	
	その他	0	0	0	0	
	一般財源	29,666	34,509	34,509	89,779	
IV 指標						
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度
厨房機器更新台数			目標値	15	4	5
			実績	15	4	5
V 事中評価						
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	重点化する			高い
<p>厨房機器の更新を重点的に行っていたが、施設についても老朽化による不具合が認められる。</p>						
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大			
<p>建築後22年が経過し、現在の学校給食センターの老朽化が進んでおり、厨房機器に加えて給排水、電気、配管等、施設の更新も必要である。</p>						
VI 事後評価						
成果		総合評価(令和4年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当		
<p>学校給食センターの老朽化した機器の更新等が予定通り実施できた。機器更新については今後も計画通り事業を進める。加えて、給排水、電気、配管等、施設の更新も進めていく。</p>						

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10425_01			
事業名(行目名称)		幼稚園施設環境整備費	細事業名	幼稚園施設環境整備事業				
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実				
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校教育課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市公立幼稚園に通園する園児		数値	26人			
	手段(どうやって)	危険箇所及び老朽化した箇所の工事・修繕等を随時行っている。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	幼稚園施設の適正な保守及び維持管理を行い、園児が安全で快適な教育を受けることができる環境をつくる。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		2,175	1,000	1,000	342	○需用費 550千円 ○役員費 66千円 ○委託料 384千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
一般財源		2,175	1,000	1,000	342			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
園児一人当たりの投入費用(円)			目標値	0	65735	30000	65000	50000
			実績	0	63970	7800	13163	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
施設修繕料等を執行することで、維持管理を図る。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
施設・設備の適正な維持管理を図り、幼児が安心して安全な園生活を送ることができるよう実施を行う。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
園児の安全をを優先し、修繕等により安全で快適な教育環境の維持・確保に努めた。園児の安全確保のため今後も継続して事業を行う。								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10491_01		
事業名(行目名称)		学校図書館支援センター充実費	細事業名	学校図書館支援事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	小中学校の学校図書館	数値	26館			
	手段(どうやって)	学校図書館支援センターから各学校に学校司書を派遣し学校図書館の環境整備を進める。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	学校図書館の環境整備や調べ学習や図書資料を活用した授業支援及びESDの取組を行い、児童生徒の主体的な学習活動を充実し豊かな感性を育む。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		22,761	24,114	24,114	22,827	○報酬 15,091千円 ○職員手当等 2,516千円 ○共済費 3,060千円 ○報償費 66千円 ○旅費 851千円 ○需用費 158千円 ○委託料 172千円 ○使用料及び賃借料 2,190千円 ○負担金補助及び交付金 10千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	22,761	24,114	24,114	22,827		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
授業支援件数		目標値	2800	2800	2800	2800	2800
		実績	3905	3718	1631	3593	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
中学校の学校図書支援においては司書の増員が課題となっている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
令和5年度の予算要望の際に中学校の司書の増員を要望し、その分図書購入費を減額して現状維持を保つ。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
小学校を中心に学校司書を派遣し、授業支援の充実が図られた。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10501_01		
事業名(行目名称)		学校給食多子世帯支援事業費	細事業名	学校給食多子世帯支援事業補助金			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校給食課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	多子及び所得等の条件を満たす小中学校児童生徒		数値	132		
	手段(どうやって)	市内小中学校に一世帯に3人以上在籍する児童生徒のうち、第3子以降の学校給食費を減免する。保護者から学校を通じて新居浜市学校給食会に減免申請し、新居浜市学校給食会が認定、学校に補助金を振込み、学校から学校給食会に給食材料費(牛乳代を除く)として振り込む。(概算払い、学期ごとに清算する)					
	目的(どんな状態にしたいのか)	子育て世代の経済的負担の軽減と少子化対策の一助とする。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		2,405	2,576	2,576	2,252	○役務費 44千円 ○負担金補助及び交付金 2,532千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	2,405	2,576	2,576	2,252		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
補助対象児童生徒数		目標値	87	79	84	84	55
		実績	52	52	50	51	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
所得等の条件に該当する50名について学校給食費免除の認定が行えた。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
現在と同じ基準での免除を継続する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
所得等の条件に該当し認定を行った児童生徒について、学校給食費免除が行えた。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10554_01		
事業名(行目名称)		スクール・サポート・スタッフ配置事業費	細事業名	スクール・サポート・スタッフ配置事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内小中学校(配置校)の教員		数値	219人		
	手段(どうやって)	教材作成の補助、各種調査等の集計など教員の事務業務を補助するスクール・サポート・スタッフを配置する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	教職員でなければならない業務を明確にするとともに、それ以外の業務についてスクール・サポート・スタッフを積極的に活用することで、児童生徒への指導や教材研究等に注力できる時間を確保する。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		5,872	16,631	16,631	15,222	○報酬 13,884千円 ○職員手当等 1,739千円 ○旅費 1,008千円	
財源	県・国支出金	3,339	9,373	9,373	8,450		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
一般財源		2,533	7,258	7,258	6,772		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
業務負担軽減を感じた教職員の割合(%)			目標値	85	85	85	85
			実績	84	93	0	89
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>現在要望があった25校のうち、県補助対象となった20校に配置し、各校で業務を行っている。新型コロナウイルス感染症対策による業務(児童生徒の検温、消毒作業等)も増加しているため、残り5校に関しても配置を要望する声が上がっている。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>どの学校においても担当事業数の増加や新型コロナウイルス感染症対策などで現場の教職員の負担は増加しているが、県からは現状ではこれ以上増員することは難しいとのことだったため、現状維持とする。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>令和3年度は7校の配置であったが、令和4年度は20校へ拡大した。児童生徒への指導等に注力できる体制の整備としてスクールサポートスタッフを配置することは有効と感じた教職員は95%に上っており、配置効果は大きいと考えられるため、今後も事業を継続していく。</p>							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10556_01			
事業名(行目名称)		部活動指導員配置事業費	細事業名	部活動指導員配置事業				
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実				
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校教育課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	配置校の中学生・教員		数値	764人			
	手段(どうやって)	中学校の部活動において技術的な指導に従事する部活動指導員の配置が制度化されたことから、配置が必要と判断される市内中学校に専門的知識、技能を有する部活動指導員を配置して指導内容を充実させる。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	生徒の活動意欲や競技力の維持、向上を図るとともに、部活動顧問の負担を軽減する。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		839	1,169	1,169	920	○報酬 1,011千円 ○旅費 158千円		
財源	県・国支出金	556	766	766	602			
	地方債		0	0				
	その他	0	0	0	0			
一般財源		283	403	403	318			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
部活動指導員を配置している部活動数			目標値	4	4	3	3	5
			実績	4	3	3	3	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	重点化する					
部活動指導員を配置することで生徒の活動意欲や競技力の維持、向上を図るとともに、部活動顧問の負担を軽減することができている。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大					
今後の部活動の地域移行に向けて、地域の指導者の確保を図っていく必要がある。部活動指導員は地域指導者となりうる貴重な人材であることから、配置数を増やしていく。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
部活動指導員を配置することで生徒の活動意欲や競技力の維持、向上を図るとともに、部活動顧問の負担を軽減することができた。								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10568_01		
事業名(行目名称)		小中学校ICT環境整備推進事業費	細事業名	小中学校ICT環境整備推進事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	児童及び生徒		数値	9,032人		
	手段(どうやって)	GIGAスクール構想で整備した1人1台のタブレット端末、無線LAN機器、電子黒板等を適切に維持管理し、必要な機器を追加整備することでICT教育を推進する。また、校務のICT化のため校務用PCや統合型校務支援システム及びICT支援員を整備する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	1人1台のタブレット端末等整備したICT機器を活用し、GIGAスクール構想の主な目的である児童生徒一人一人に個別最適化された教育を実現する。また、校務用ICT機器やシステムを活用することで業務の効率化を図り、教員の負担軽減を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		368,031	349,461	349,461	349,286	<ul style="list-style-type: none"> ○需用費 2,500千円 ○役務費 200千円 ○委託料 30,809千円 ○使用料及び賃借料 314,118千円 ○備品購入費 428千円 ○補償補填及び賠償金 1,406千円 	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	368,031	349,461	349,461	349,286		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
児童生徒一人当たりの投入費用(円)		目標値	36048	40000	38400	38600	38600
		実績	42856	39929	38442	38672	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>国のGIGAスクール構想で整備した児童生徒一人一台タブレット端末及び校務用PCについて、校内ネットワーク上で利活用している。今後はスキルアップを図るための研修会の実施や、必要な機器の購入により効果的な使用ができる環境構築を図る必要がある。今年度は児童生徒タブレットの平時の持ち帰りを開始し、夏休みは全校で持ち帰りを実施した。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>2020年度に小学校、2021年度に中学校の新学習指導要領が施行され、また、文部科学省のGIGAスクール構想により、1人1台のタブレット端末の整備が完了した。今後はICT環境の充実、維持管理、効率的な活用のための教員の研修等が必要不可欠である。また、令和2年4月に本格稼働を始めた統合型校務支援システムについても、安定した運用ができるようになるまでにはフォローが必要である。整備したICT環境の維持管理、効果的に使用するための整備内容の見直し、必要なソフトウェアの追加購入、持ち帰りに備えた家庭への支援などが今後の課題となる。</p>							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	A: 計画通りに事業を進めることが適当				
<p>整備した児童生徒一人一台タブレットの学校内における利活用が進み、ICT教育を推進することができた。タブレットの家庭への持ち帰りについても開始している。また、校務用PC・校務支援システムを活用することで校務の効率化が図られている。今後についても教員への研修や運用方法の検討を行い、効果的な使用ができる環境構築を図る。</p>							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10570_02		
事業名(行目名称)		学校給食センター建設事業	細事業名	西部学校給食センター建設事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	小・中学校児童生徒等		数値	7100		
	手段(どうやって)	DB方式により新たな学校給食センターを整備し、令和5年9月からの供用開始を目指す。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	老朽化した小学校の給食室等の代替施設として、学校給食衛生管理基準に適合した新たな学校給食センターを整備することにより安心・安全な学校給食の提供を目指す。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		4,200	1,458,160	794,000	331,280	○工事請負費 794,000千円	
財源	県・国支出金	0	242,944	131,803	116,532		
	地方債	3,100	895,400	524,200	110,000		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	1,100	319,816	137,997	104,748		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
事業の進捗状況(%) (請負金額ベース)		目標値	0	2	5	30	90
		実績	0	2	5	12	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
敷地の拡大や、建物レイアウトの変更、また、世界的な資材不足や価格の高騰により、事業費や事業期間の見直しを行い、開業を令和5年9月から令和6年9月に変更することとした。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
令和5年度は施設本体の工事が始まり、建物自体は令和5年度末に完成の予定。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	A: 計画通りに事業を進めることが適当				
令和4年11月からの準備工から本体工事に着手し、順調に進んでいる。令和6年9月からの供用開始に向け、引き続き事業を進めていく。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10570_03		
事業名(行目名称)		学校給食センター建設事業	細事業名	西部学校給食センター建設推進事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	小・中学校児童生徒等		数値	7100		
	手段(どうやって)	DB方式により新たな学校給食センターを整備し、令和5年9月からの供用開始を目指す。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	老朽化した小学校の給食室等の代替施設として、学校給食衛生管理基準に適合した新たな学校給食センターを整備することにより安心・安全な学校給食の提供を目指す。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		2,516	6,930	6,930	6,477	○委託料 6,930千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	2,516	6,930	6,930	6,477		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
事業の進捗状況(%) (請負金額ベース)		目標値	0	2	15	30	90
		実績	0	17	17	71	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
整備敷地面積の拡大や、建物レイアウトの変更、また世界的な資材不足等により、整備スケジュールに遅れが生じたため、モニタリング業務についても契約期間の変更が必要となる。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
令和5年2月から本体工事に着手する予定となっており、令和5年度は建設モニタリング業務が主となる。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	C: 事業規模・内容・実施主体の見直し検討				
本整備事業の工期が1年間延長されたことに伴い、モニタリング業務についても変更契約を行う。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2022	10626_01	
事業名(行目名称)		旧王子幼稚園解体事業		細事業名 旧王子幼稚園解体事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育		施策 学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備		担当課 学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	旧王子幼稚園			数値	1施設	
	手段(どうやって)	閉園となった旧王子幼稚園を解体する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	施設を解体し、公共施設を削減する。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費			83,577	83,577	78,008	○需用費 320千円 ○役務費 7千円 ○委託料 1,190千円 ○工事請負費 82,060千円	
財源	県・国支出金		0	0	0		
	地方債		74,000	74,000	3,400		
	その他		0	0	0		
	一般財源		9,577	9,577	74,608		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
公共施設の削減数			目標値		0	1	—
			実績		0	1	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	休止・廃止する				
施設の再利用等についての検討を行ったが、結局解体することになり、9月末に解体事業者が決定した。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止				
施設を解体し、事業が終了。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)		D:事業の統合・休廃止を検討			
予定どおりに解体工事が終了し、管理する施設が1減となった。また住友企業より無償で借り受けていた土地についても返却した。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10631_01		
事業名(行目名称)		小学校トイレ改修事業	細事業名	小学校トイレ改修事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	小学生	数値	5,890人			
	手段(どうやって)	小学校施設のトイレについて、洋式化、乾式化及び配管などの改修工事を実施する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	児童生徒の学びの場であるとともに災害時の避難所としての役割もある学校施設について、衛生的で快適なトイレ環境を整備する。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費			10,878	10,878	5,478	○委託料 10,878千円	
財源	県・国支出金		0	0	0		
	地方債		8,100	8,100	0		
	その他		0	0	0		
	一般財源		2,778	2,778	5,478		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
設計実施校数		目標値			0.5	1	
		実績			0.5	1	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
中萩小学校北棟・中棟のトイレについて設計業務委託を契約し、設計を実施している。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
今年度設計委託業務を実施している中萩小学校について、来年度トイレ改修工事を実施したい。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
中萩小学校北棟・中棟のトイレ改修設計業務について、予定通り実施できた。今後は設計成果を活かして工事を実施していきたい。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10632_01		
事業名(行目名称)		西部学校給食センター開設準備事業	細事業名	西部学校給食センター開設準備事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校給食課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	小中学校児童生徒等		数値	7100		
	手段(どうやって)	新たな学校給食センターを整備し、令和6年9月から開業できるよう、準備事務を行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	安心、安全な学校給食を安定的に供給する体制づくりを目指す。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費			7,369	7,369	5,150	○使用料及び賃借料 5,169千円 ○負担金補助及び交付金 2,200千円	
財源	県・国支出金		0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他		0	0	0		
	一般財源		7,369	7,369	5,150		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
契約件数		目標値			3	3	2
		実績			3	3	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	重点化する				
建物用地借用、駐車場用地借用、水道加入のうち、土地借用2件の契約に向けて事務が進んでいる。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
今年度の土地借用は11月以降の5か月分であるが、来年度は1年分になるため賃借料が増加する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
水道負担金、建設用地借地料、駐車場用地借地料を支払い、水道加入及び用地確保ができた。							